

日本の物価や賃金が主要先進国の中でも突出して安くなっているのをご存じだろうか。よく引用されるのがマクドナルドのビッグマックの価格である。日本で300円台で購入できるビッグマックは、スイスでは700円前後になる。スイスだけではなく、25カ国ぐらいで日本よりビッグマックの価格は高いようだ。

ビッグマックだけではない。先日新聞記事が出ていたが、アップルは世界でもっとも安い価格になっている。日本でのマックやアイフォーンなどの製品価格を引き上げると発表した。日本で価格が安いのはマック(マクドナルド)やマック(アップルの製品)だけではない。あらゆる分野で日本国内でも物価の安さが突出している。

不動産の価格もその一例だ。東京の高級住宅街のマンション価格も海外から見たらとても割安であるよう

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

## 論壇

### 円安を経済活性化のチャンスに

だ。高級マンションを高値で買う中国人などが多くと聞く。割安である日本の物件は投資対象として魅力的なのだろう。ホテルの値段でも同じような現象が見られる。海外主要都市の高級ホテルの料金は、1泊5万円から10万円するのが当たり前で、3万円程度で泊まれる日本の高級ホテルはとても安く感じるそうだ。日本

今の状況がよいとは思わない。円安で食料の輸入価格がさらに上がれば、私たちの台所を直撃すること

本国内では日本人は安いホテルに宿泊し、外国人が10万円近い高級ホテルに泊まるということが当たり前のようになっている。

こういう話を聞くと、日本は貧しくなってしまったのか、と寂しい気持ちになる。日本の経済がピークであったのは1990年代の中頃だった。当時は超円高であり、日本の物価は世界でも有数に高いものだったのだ。

た。日本の観光客は海外で安い物価を満喫できたし、日本の企業は海外の企業を多く買収していった。今は当時と正反対の状況であり、円安は「安くなった日本」の象徴的な存在である。

結果でもある。デフレで日本の賃金や物価が上がらないことで、日本の全てが海外に比べて安くなっていたのだ。

嘆いていてもしかたない。割安感

が出ている日本経済の状況を、日本経済を活性化させる手段として活用することを考える必要がある。コロナ後を見通したインバウンドには大いに期待できる。安くなった日本に向けて多くの観光客がくるだろう。地域の製造業にも期待できる。これまでは人件費でコストが高いことが輸出競争力を弱めていたが、現状では日本の製造業のコスト競争力は高まっている。先日、茨城県で、2千億円規模で大規模な工場建設を進める素材メーカーの話を聞く機会があったが、国内生産が品質とコストのバランスでも有利だという。海外からの投資が増えているのは、不動産だけではない。製造業でも日本の企業へ投資したいという海外の投資家も増えている。日本のパーセンテージを積極的に取り込む良いチャンスである。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載してまいります。無断転載、複製を禁じます。